

調 査 概 要

I 年間調査テーマの選定理由

本市のまちの歴史は、大治元年（1126年）6月1日に、千葉常重が上総国大椎（現・緑区大椎町）から千葉（現・中央区亥鼻付近）に本拠を移したことが始まりとされ、令和8年（2026年）に「開府900年」という大きな節目を迎えることとなる。

令和5年度は、「開府900年」まであと3年に迫る中、当局においては、開府900年記念事業実施本部の立ち上げや開府900年記念協議会の設立など、「開府900年」に向けて本格的に始動する年となる。

「開府900年」に向けた取組は、先人たちが実施した開府800年、850年といったこれまでの取組を踏まえつつ、平安時代後期の千葉氏から始まるこのまちの歩みを振り返るとともに、さらに100年後の開府1000年という大きな節目に向かって、市民とともに未来のまちづくりを進めていくための大変重要な契機であることから、当委員会としても、委員間討議を踏まえ、年間テーマとして調査を行うこととした。

II 調査の概要

1 所管事務調査（令和5年度の取組等について）

9月12日の委員会において、令和5年度の取組等についての所管事務調査を行った。

（1）千葉開府900年の意義について

本市では、大正10年の市制施行後、開府800年（大正15年）、850年（昭和51年）と、50年ごとに記念事業を行ってきた。現在も続く親子三代夏祭りは、この開府850年の時に第1回を開催している。

開府の祖である千葉一族の活躍から現代の私たちが学ぶこととして、不透明な時代に変化を恐れず果敢に挑戦する姿（チャレンジ）や全国各地の状況に応じたまちづくり（グローバル）、また、文化づくりやひとづくりが挙げられると考えている。

（2）記念事業の推進について

「千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとづくり、文化づくり」を基本理念に、千葉市に関わるすべての市民・企業・団体を主体とし、すべての主体

は、千葉開府 900 年を、千葉氏から始まる本市のまちの歩みを通じて育まれてきた有形・無形の貴重な資源を再認識するとともに、これら資源を活かしながら、未来のひとづくり・文化づくりに取り組むこと、また、それぞれの主体が未来の理想の暮らしや社会を思い描きながら、連携・交流して取り組むことにより、より豊かな郷土・千葉市の実現に資する機会とすることを基本方針としている。

(3) 記念事業の推進体制について

全庁的に記念事業を推進するため、令和 5 年 5 月 30 日に、市長を本部長とする実施本部を設置した。また、官民挙げて記念事業を推進するための体制として（仮称）開府 900 年記念協議会を立ち上げるとともに、さらに多様な主体の参画を促すため、同協議会にメンバーシップ制度を設ける予定。

期間については、令和 5 年度、6 年度を準備期間、令和 7 年度から 8 年度を記念期間とする。また、レガシーとして残すべき事業は、令和 9 年度以降も継続実施する。

(4) 開府 900 年に向けた推進計画について

多くの市民や民間団体等と、記念事業の理念や推進体制などを共有して、様々な形で記念事業に参加していただき、900 年記念ならではの事業を生み出すための（仮称）千葉開府 900 年記念事業推進計画を策定予定。

(5) 令和 5 年度の取組について

- ① 庁内組織（実施本部）の立ち上げ（5 月 30 日）
- ② 実行組織（（仮称）千葉開府 900 年記念協議会）の立ち上げ（11 月発足予定）
- ③ 千葉開府 900 年 P R 動画の制作（8 月 4 日公開）

開府 900 年に向けた機運醸成の一環として、千葉氏が主人公となるゲームをモチーフとした P R 動画「千葉開府 月と星の伝説」を制作した。（本編 60 秒）

- ④ 千葉開府 900 年カウントダウンイベントの開催（12 月 14 日予定）

千葉開府の日まで 900 日となるこの日にセレモニーを行い、開府 900 年に向けたカウントダウンを開始する予定。

2 宇部市行政視察（市制施行 100 周年記念事業について）

10 月 24 日に山口県宇部市を視察し、市制施行 100 周年記念事業について等の調査を実施した。（詳細は視察報告書参照）

<調査項目>

- (1) 宇部市施行 100 周年記念事業実績報告について
- (2) 市制施行 100 周年記念事業に関する成果分析について

- (3) 関連事業について

3 筑紫野市視察（市制施行50周年記念事業について）

10月25日に福岡県筑紫野市を視察し、市制施行50周年記念事業についての調査を実施した。（詳細は視察報告書参照）

<調査項目>

- (1) 記念事業の理念
- (2) 実施機関
- (3) キャッチフレーズ
- (4) ロゴマーク
- (5) 記念事業の構成
- (6) 予算額
- (7) 庁内の連携体制
- (8) 記念事業の内容
- (9) 新型コロナウイルス感染症の影響
- (10) 事業の効果や成果

4 春日市視察（市制50周年記念事業について）

10月25日に福岡県春日市を視察し、市制50周年記念事業について等の調査を実施した。（詳細は視察報告書参照）

<調査項目>

- (1) 記念事業の目的
- (2) 基本理念
- (3) ロゴデザイン
- (4) 記念事業の構成
- (5) 実施体制
- (6) 事業費
- (7) 市主催事業における業務委託の内容
- (8) 記念事業の実施結果

5 所管事務調査（令和5年度の取組状況等について）

12月5日の委員会において、令和5年度の取組状況等についての所管事務調査を行った。

（1）令和5年度の取組状況について

9月12日調査時の予定どおり、実行組織の立ち上げ等を行った。

（2）千葉開府900年記念事業推進計画（素案）について

11月に発足した「千葉開府900年記念協議会」において、記念事業の基本的な考え方や体制、スケジュールなど、取組の全体像を共有するため、「千葉開府900年記念事業推進計画」を策定することとし、その素案が示された。

「千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとつづくり、文化づくり」の基本理念の下、4つの基本方針が示され、千葉市のほか、市内市民団体、経済団体、学術団体等の民間団体により組織される協議会により、官民あがて記念事業を推進することとされている。

また、今後の事業計画としては、令和6年度を準備期間、7年度を先行期間、そして8年度を記念期間とし、それぞれ機運醸成や記念式典、祝祭イベント等を行うこととされた。

（3）記念事業の推進体制について

全庁的に記念事業を推進するため、令和5年5月30日に、市長を本部長とする実施本部を設置した。また、官民あがて記念事業を推進するための体制として（仮称）開府900年記念協議会を立ち上げるとともに、さらに多様な主体の参画を促すため、同協議会にメンバーシップ制度を設ける予定。

期間については、（2）のとおり令和6年度から令和8年度としているが、レガシーとして残すべき事業は、令和9年度以降も継続実施する。

（4）令和6年度の取組について

令和6年度中に実施予定の事業は以下のとおり。

- ①ロゴマーク、キャッチコピーの制作
- ②ポータルサイトの立ち上げ
- ③記念事業・記念商品の募集開始
- ④開府の日機運醸成イベントの開催

Ⅲ 調査の総括

12月5日の委員会での調査終了後、年間調査テーマに基づく1年間の調査の総括として、委員間で意見交換を行った。調査を通じて出された委員からの主な意見は次のとおり。

〈主な意見〉

- ・ 今期の調査は大変に実りある、素晴らしいものであったと思う。お世話になった方々に感謝を申し上げたい。
- ・ 「千葉開府900年について」の取組は、単にイベントを行うことにとどまらず、地域の活性化に資することや、今後のまちづくりを考える契機ともなりうることから、議会としても、この開府900年に向けた取組を大いに盛り上げ、成功に導くことができるように調査を行うことは重要なことだと考える。
- ・ 開府850年祭に参加された方々の意見等をしっかりと聴取するなどして参考とし、900年祭も盛大に開催できるようにしていただきたい。
- ・ 開府900年記念事業は、多様な主体を巻き込んでいけるような体制で推進していただきたい。
- ・ 開府900年を機に、本庁舎にロゴマークを標示するなど、目に見えるレガシーを残すことも検討していくべきである。
- ・ 今年度実施したイベントに参加したが、皆さん朝早くから一生懸命に準備され、とても良いイベントであった。ただ、市民への周知が足りていないと感じたことから、今後は情報発信をさらに工夫していただきたい。
- ・ 動画によるPRを行う際には、特に若い世代に訴求することを意識して、費用対効果を最大とすべく、効果的に行える手法を研究するべきである。
- ・ 総務委員会の所管事項では、防災対策や職員の待遇、選挙の投票率向上への取組など、ほかにも重要な課題が数多くある中で、この開府900年についてを年間調査テーマとすることに完全に同意していたわけではなかった。委員会視察については、学びもあったが、テーマが偏っており、満足度が低かったことが率直に残念だった。他の課題についても視察テーマに盛り込んでいただきたかった。
- ・ 委員会視察では、視察内容についてはもちろん、それ以外の部分でも、例えば、宇

部市の「まちじゅうエヴァンゲリオン」の取組など、現地に行って初めて分かることもあった。現地に行くことの重要性を再認識した。

IV 結びに（委員長所感）

千葉市誕生の年である大治元年（西暦 1126 年）から数えて 900 年となる令和 8 年（西暦 2026 年）を迎えるに当たり、多くの先人が築いてこられた長い歴史と伝統を再確認し、細かくひも解いていくために、市議会として何をしていけばよいのかということで、「千葉開府 900 年について」を年間調査テーマとさせていただいた。

開府の祖である千葉一族の活躍を参考にして、不透明なこの時代をどう生き抜くのか？100 年後の開府 1000 年に向けて、次世代に何をどう伝えていくのか？

そのためにも、数年後の開府 900 年記念行事を迎えるに当たり、官民一体となって取り組んでいくことはもちろん、千葉市にゆかりのある多くの方々、市民の方々を巻き込んで参加してもらうことが重要であることから、市議会としても、できる限りのバックアップをしていかなければならないと考える。

今年度の調査を終えるに当たり、令和 8 年度の記念事業に向け、次年度以降も引き続き調査を行っていただくことを期待したい。

終わりに、この場をお借りして、調査にご協力いただいた委員各位、本市執行部をはじめ、視察先でお世話になった皆様に深く感謝を申し上げます。